

2020年度 第一回 高2レベル記述模試 国語 採点基準

Ⅰ 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。

b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。

ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d **解答通り**という条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もありえます。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

* 字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

* ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 **古文あるいは漢文の訳を記述する設問**の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

第一問（問一、問二、問五、問七は解答通り。他は全て不可）

問一 1 洗練 2 駆使 3 体裁 4 調停 5 必至

[2点×5]

問二 a ニ b ロ c ハ d イ

[3点×4]

問三 ごくふつうの言葉の組み合わせ方と「思想」という言葉のユニークな用法が重なって、独自の表現を生みだしているから。(55字)

[6点]

問四 感情や気分という情動の意味を伝えることを目的とし、他人とのあいだに何らかの合意を求めようとするもの。(50字)

[6点]

問五 ホ

[4点]

問六 論理とは思考の筋道、あるいは言葉の筋道のことであるから、論理的表現も結局は、言葉のスタイルの問題に帰着するということ。(59字)

[8点]

問七 ニ

[4点]

(計50点)

問三 ごくふつうの言葉の組み合わせ方と「思想」という言葉のユニークな用法が重なって、独自の表現を生みだしているから。(55字)

[6点]

A ごくふつうの言葉の組み合わせ方と(2点)

- ①「ごくふつうの言葉」で一点。「一般的な言葉」は可。「標準化された言葉」は不可。
②「言葉の組み合わせ方」で一点。①がなくても得点。

B 「思想」という言葉のユニークな用法が(2点)

- ①「思想」という言葉「で一点。
②「ユニークな用法」で一点。①がない場合は無得点。

C 重なって、独自の表現を生みだしているから。(2点)

- ①「重なって」「あいまって」で一点。
②「独自の表現を生みだしている」で一点。①がなくても得点。

問四 感情や気分という情動の意味を伝えることを目的とし、他人とのあいだに何らかの合意を求めようとするもの。(50字) [6点]

A 感情や気分という情動の意味を伝えることを目的とし(3点)

- ① 「感情や気分という情動」で1点。「情動」だけでも可。
- ② 「意味を伝えること」で1点。①がない場合は得点与えず。
- ③ 「目的とし」で1点。①②がない場合は得点与えず。

B 他人とのあいだに何らかの合意を求めようとするもの(3点)

- ① 「他人とのあいだに」で1点。
- ② 「何らかの合意を求めようとする」で2点。「何らかの」を欠く場合は1点。

※ 「もの」「を」「こと」としていても可。

問六 論理とは思考の筋道、あるいは言葉の筋道のことであるから、論理的表現も結局は、言葉のスタイルの問題に帰着するということ。(59字) [8点]

A 論理とは思考の筋道、あるいは言葉の筋道のことであるから(3点)

①「論理とは……ことであるから」で1点。②も③もない場合は得点与えず。

②「思考の筋道」で1点。

③「言葉の筋道」で1点。

B 結局は、(1点)

C 論理的表現も……言葉のスタイルの問題に帰着するということ(4点)

①「論理的表現も」に帰着する」で2点。「論理的表現も」がない場合は1点。②がない場合は無得点。

②「言葉のスタイルの問題に」で2点。

※ 制限字数の半分以上書かなかった場合は無得点とする。

※ 「から」「や」「こと。」「のように、設問要求に正確に答えていない場合、文末不備として1点減点。

※ 句点を付けていないものも1点減点。

※ 誤字は1点減。

三 現代文 小説(50点)

問一 各3点

(ア) ニ (イ) ロ

問二 9点

【模範解答】

- 流れが緩やかで (A 2点)
柳の大木が枝を垂らしている (B 2点)
(淵が) すぐ近くにある(のに、) (C 1点)
わざわざ急流を渡ろうとして (D 1点)
失敗を繰り返している (E 3点)
から。

【採点のポイント】

- A 「流れが緩やか」(2点)
○ 「流れがゆっくり」
○ 「澱んだ流れ」
△ 「淵」しか書いていない場合、Aポイント1点。

B 「柳の大木が枝を垂らしている」(2点)

- ※ 「大木」の有無は不問
○ 「木が枝を垂らしている」
○ 「柳の枝がある」「木の枝がある」
× 「柳の木がある」は、「つかまれそうな枝がある」の意味が薄い(単に「近くに木が立っているだけ」ということになってしまう)ので、Bポイント0点

C 「(淵が) すぐ近くにある」(1点)

- 「(急流の) すぐ上のところには(淵がある)」「(急流の) 上には(淵がある)」
× 「流れがゆっくりとしたところがある」など、蛙が今いる場所と「近い」ことが読みとれない場合、Cポイント0点

D 「わざわざ急流を渡ろうとして」(1点)

- ※ 「わざわざ」の有無は不問
○ 「速い流れに挑戦して」

E 「失敗を繰り返している」(3点)

△ 「失敗したから」など、「繰り返し」「何度も」の要素が無い場合、Eポイント1点

問三 6点

二

問四 各3点

X イ Y ロ

問五 14点

【模範解答】

力の限り戦い、 (A 2点)

自らの運命に従順に死んでいった赤蛙の姿に、 (B 2点)

目には見えない大きな意志を感じ、 (C 3点)

蛙のような小動物からさえそうした印象が感じられることに (D 3点)

深く感動して、 (E 1点)

厳粛で敬虔な気持ちにつつまれている。 (F 3点)

【採点のポイント】

A 「力の限り戦い」(2点)

B 「自らの運命に従順に死んでいった赤蛙の姿に」(2点)

△ 「抵抗らしいものを示さずに呑みこまれていった」は「運命に(従順)」の要素がないので、1点。

× 「刀折れ、矢尽きた感じ」は比喻表現であり、0点。

C 「目には見えない大きな意志(を感じ)」(3点)

○ 「明確な目的意志」

△ 「本能的な生の衝動以上のもの」1点

× 「自然の神秘」0点

D 「蛙のような小動物からさえそうした印象が感じられる」(3点)

E 「深く感動」(1点)

○ 「強く心を打たれ」

F 「厳粛で敬虔な気持ちにつつまれている」(3点)

△ 「厳粛」「敬虔」の一方しかない場合、1点

× 「ひきしまった気持ち」0点

× 「静かな気持ち」0点

問六
6点

ハ

問七
3点

ロ

第一回 高2レベル記述模試 採点基準 【50点満点】 二〇二〇年九月

高二

問一

■主語把握の問題

■解答 配点：各2点

◎||イ ◎||ハ ◎||ハ ◎||ニ

問二

■現代語訳問題

■字数制限無し

■形式上の不備

・文末表現は各詳細参照 ・句読点は不問

基準 配点：各④点

①

■模範解答

立つこと さえ | a b | できなかつ | c d | た | の | で

■採点方法：各要素単独採点

■要素 a さえ：1点

・類推「さえ・さえも」 「すら」も類推の意なので可とする。

・最低限度の願望（せめてだけでも）は不可。添加「までも」も不可。

■要素 b できない：1点

・可能「かなふ（できる）」「+打消「ず（く）ない」」 完答で1点

・「かなわない」も同義なので可とする。

■要素 c た：1点

・過去「た」

■要素 d ので：1点

・順接確定条件・原因理由「ので・から」

■その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

ただし主語（行能）を付け加えて間違っていれば、①点減点とする。

②

■模範解答

a
b
c

全く 存じ上げ なかった

■採点方法…各要素単独採点

■要素a 全く…1点

・「全く」、「全然」、「一切」など、完全否定を表す副詞であれば可

■要素b 存じ上げ…2点

・「知る」の謙譲語「存じ上げる」「知り申し上げる」など

・「ご存知」は尊敬語なので不可

■要素c なかった…1点

・打消「ない」があれば可。過去は意識なのでなくても不問。

■その他…真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

③

■ 模範解答

a

まさか 死な ないでしよう

b

■ 採点方法：各要素単独採点

■ 要素 a まさか：2点

・「まさか・よもや・いくらなんでも」。起こりそうもないと予想する副詞。

■ 要素 b ないでしよう：2点

・打消推量「ないだろう・まい」①点

・丁寧語「です・ます」など①点

■ その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

問三

■ 内容説明の問題

■ 字数制限 三〇字。以上のものは〇点 以下のものはすべて採点対象とする。

■ 形式上の不備

- ・文末表現「願い・〜てほしいということ」など体言にする。不備一点減点
- ・句読点は不問

基準 配点：4点

■ 模範解答

a b c d

法深房の 行能に 阿釈妙楽音寺の額を書いてほしい という願い

■ 採点方法：各要素単独採点

■ 要素 a 法深房の：一点

- ・「法深房の・藤原孝時の・孝時の」。願いを持つ人物が法深房であることがわかれば可。

■ 要素 b 行能に：一点

- ・「行能に・綾小路三位入道行能に・禅門に」でも可とする。

■ 要素 c：阿釈妙楽音寺の額を書いてほしい：一点

- ・「楽音寺の額」も可。

- ・「寺の額」では他の寺も本文中に出てくるので適さない。①点減点。

- ・「書いてほしい」「書いてもらう」「書いてもらいたい」などでも可。

■ 要素 d：という願い：一点

- ・「という願い」「こと」ということ」など体言にする。

■ その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

問四 Ⅰ あさましくて給へ

Ⅱ この額くるなり

(各③点)

■ 字数制限 各三字。句読点は含まない。別解無し。

問五

■ 内容説明の問題

■ 字数制限 六〇字。以上のものは〇点 以下のものはすべて採点対象とする。

■ 形式上の不備 ・文末表現・句読点は不問

基準 配点：8点

■ 模範解答

a

b

c

行能が書いた額のおかげで、魔物が寺の再興を妨げることがなくなり、僧も安心して寺に住
d

み、寺の領地も豊饒になったこと。

■ 採点方法：各要素単独採点

■ 要素 a 行能が書いた額のおかげで：2点

・行能が書いた・行能の：①点

・額の効能によって：①点

■ 要素 b 魔物が寺の再興を妨げることがなくなり：2点

・魔物が悪さをしなくなったことがわかれば可。

■ 要素 c 僧も安心して寺に住み：2点

・僧が安心したことがわかれば可。

■ 要素 d 寺の領地も豊饒になったこと：2点

・正確には「寺の所領が豊かになったこと」であるが、結果として「寺が豊かになった」
ことでも可。

■ その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

問六

■ 内容説明の問題

■ 字数制限無し。

■ 形式上の不備

・ 文末表現・句読点・解答順は不問。

基準

配点：各3点

■ 模範解答

一つ目

a

・ 文字が消えかけた(近江の寺の)額を直してほしいということ。

b

c

■ 採点方法：各要素単独採点

■ 要素 a 文字が消えかけた：1点

・ 「文字が読めなくなった」「文字の部分が壊れてしまった」など、文字の修復が必要であることがわかれば可。

■ 要素 b (近江の寺の)額を：1点

・ 「額」であることがわかれば可。

・ 「近江の寺の」は無くても不問だが、「楽音寺」となっているものは0点とする。

■ 要素 c 直してほしい：1点

・ 「書き直してほしい・修復してほしい・書いてほしい」なども可。

■ その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

二つ目

a

b

c

・五日以内に額を書いてほしいという人が来るので、往生の機縁と思って 必ず書けということ。

■採点方法…各要素単独採点

■要素 a 五日以内に額を書いてほしいという人が来るので…1点

・「額を書いてほしい」という依頼があること」「額を求める人がいること」がわかれば可。

・「五日以内」は不問。

・「法深房」の名は、天人は言っていないので書いてあるものは間違い。0点

■要素 b 往生の機縁と思って…1点

・額を書くことが「往生の機縁になる」ということがわかれば可。

■要素 c 必ず書け…1点

・依頼を引き受けなさい、額を書きなさい、と言っていることがわかれば可。

■その他…間違いがなければ、余計な言葉があっても不問

問七

■内容合致問題

■解答 配点…6点

二

第一回 高2レベル記述模試 第4問

問一 各2点

a ことえて

b ゆえに

c すなわち

※カタカナは×

※送り仮名のないものは×

※歴史的仮名遣いは△減点1点

問二(一) 3点

朝廷に出仕する

※「宮中に参上する」「拝謁した」「謁見した」など○

※「朝になって参上した」などは△減点1点

※「朝になった」などは×

問二(2) 3点

三日たって

※「三日後」も○

※「三日つきそって」などは×

※「三日もしないうちに」は×

問三 6点

夢_下 与_二 二月_一 闘 而 不_{上レ} 勝。

※完答のみ○

※送り仮名をつけていて且つ完全に合っている場合は2点与える

問四B 6点

なんすれぞ めさるる(と)

- ※「すべてひらがなに」なっていないものは×
- ※文末の「と」の有無は不問とする。
- ※「なんすれぞ」で3点、「めさるる」で3点、合計6点
- ※「るる」が終止形「る」になっているものは減点2点
- ※「るる」が「れる」と現地語になっているものは×

問四C 6点

ここのやまひ(い) まさにやまんとす(と)

- ※「すべてひらがなに」なっていないものは×
- ※文末の「と」の有無は不問とする。
- ※「ここのやまひ」で2点、「まさにやまんとす」で4点、合計6点
- ※「やまひ」は「やまい」も○
- ※「ここのやまひ」の「の」の欠けは×
- ※「まさにやまんとす」は完答のみ○
- ※「やめんとす」などは×

問五 八点

A

晏子が夢占いに手柄を与えようとしたこと、

B

夢占いが晏子の教えであると正直に答えたことを よしとして、

C

D

二人ともにほうびを与えさせた ということ。

E

解答のポイント

A 「晏子は人の功を奪ふを為さず」の要素・・・2点

※ 「晏子が手柄を自分のものにせず」など○

B 「夢を占ふ者は人の能を蔽はず」の要素・・・2点

※ 「夢占いも手柄を自分のものとしなかったこと」など○

C 公がこれを「よしとした」こと・・・2点

※ 「くをよしとして」「くをたたえて」など○

※ 単に「くので」としているものは減点1点

D 傍線部そのものの内容・・・2点

※ 晏子と夢占いの両方に「ほうびを与えた」ことがあればよい。

※ 「与えさせた」の使役の意はなくてもよい。

E 文末の「くということ」の有無は不問とする。

問六 十二点

A

公の病気がたいしたものであると見て、

B

「一陰は二陽に勝たない」から

C

病はすぐに治ると助言しようと考えたが、

D

自分の口で言うよりも、

E

夢占いの夢解きという形をとったほうが

F

公も信じるであろうと思ったから。

解答のポイント

A 「公は病む所無し」の要素・・・2点

※ 「おおごとではない」「騒ぐほどのものでもない」も○

B 「一陰は二陽に勝たず」の要素・・・2点

C 「病気は治ると助言しようとした」要素・・・2点

※ 「病気は治る」に1点

「病は気からであると」も○

※ 「助言しようとした」に1点

「申し上げようとした」も○

D 「使し臣身ら之く信ぜられざらん」の要素・・・2点

※ 「自分が言っても信じてもらえないと思い」も○

E 「夢を占ふ者、く対ふ」の要素・・・2点

※ 「夢占いから言ってもらったほうが」など○

※ 「夢占いに夢を占ってもらうほうが」は×

F 「故に益有るなり」の要素・・・2点

※ 「説得しやすいと思った」なども○

※文末の「」から「」までの有無は不問とする。